

# AREホールディングス株式会社 2024年3月期 第3四半期決算説明資料

2024.1.31

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# I. 2024年3月期 第3四半期決算

(2023年4月～2023年12月)

*Financial Results for Q3 FY2023*

## II. 参考資料

*Appendix*

## 概要

売上収益 2,351億円（前年同期比+293億円）

営業利益 100億円（前年同期比 △75億円）

## パラジウム・ロジウムの価格下落影響

- ・ 一昨年の12月末比でパラジウム価格は29%、ロジウム価格は64%下落
- ・ ロジウムの価格下落影響は前年同期比△27億円
- ・ ロジウムのヘッジ比率は2023年12月末時点で47%と計画通り

## その他の要因

- ・ 触媒分野は海外からの回収量減少や円安による国内発生量の減少
- ・ エレクトロニクス分野はメーカーの生産回復が計画比遅延
- ・ 分社化に伴う会計処理の変更
- ・ 北米事業は堅調に推移

## ジャパンウエイスト

- ・ 産業廃棄物業界の優良企業の持ち株会社であるレナタス社と株式交換を基本合意
- ・ 2月末の株式交換契約締結に向けDDを実施中、当期以降の業績への影響は精査中

### 貴金属事業(アサヒプリテック・アサヒメタルファイン・アサヒリファイニング)

国内貴金属リサイクルは高い金価格を背景に宝飾分野からの回収が好調な一方、円安により触媒分野が苦戦。北米は製品加工・販売は減少したが、トレーディング・前渡しなどの金融取引が好調。

分野	事業環境
デンタル	金価格高騰と営業施策により回収量はほぼ前年並みを確保。代替製品の浸透は継続。
宝飾	金価格高騰が続き市場流通量が増加したことで回収量は前年比で約1.7倍にまで増加。
触媒	国内は円安により発生量が減少。海外も一部メーカーからの回収量が減少。
エレクトロニクス	AI関連需要は旺盛な一方、長引く中国市場の低迷による民生需要が低調で回収量は減少。
北米精錬事業	製品加工・販売は減少したが、トレーディング・前渡しなどの金融取引が好調。

### 環境保全事業(ジャパンウェイスト)

廃試薬は他社撤退影響もあり取扱量が増加傾向。医療系廃棄物は前年のコロナ関連受注を除けば取扱量は増加傾向。廃液の取扱量はスポット案件の受注があり前年同期比で増加。横浜工場の事業転換により汚泥・木くずの取扱量は大幅減少。

処理品目	事業環境
廃液	半導体需要に好転の兆しはあるが、第3四半期においては本格回復までには至らず。
廃試薬	同業他社の事業撤退影響があり、回収量は増加傾向。
医療系廃棄物	前年のコロナ特需は無くなった一方で、全体取扱量は増加傾向。
廃プラ	セメント関連の燃料需要増加により、当社取扱量は減少傾向。
その他	横浜工場の事業転換により汚泥・木くずの取り扱いを停止したため、全体の取扱量も大幅減。

単位:億円

	FY2022 3Q	FY2023 3Q		FY2023	
	実績	実績	前期比 増減	修正予想	前期比 増減
売上収益	2,058	2,351	293	2,900	△24
営業利益	175	100	△75	190	△3
営業利益率	8.5%	4.3%	△4.2%	6.6%	△0.1%
税引前利益	144	101	△43	185	24
当期利益※1	102	71	△31	132	23
設備投資	34	56	22	124	75
減価償却費	25	27	2	31	△2

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益

## 貴金属リサイクル事業(国内アジア)

## FY2023 3Q

宝飾分野から回収が増加し金の販売量が増加、金価格も上昇。  
一方で、触媒やエレクトロニクス分野の停滞が続いていることや、パラジウムとロジウムの価格下落の影響を受ける。

## ➡増収・減益

## 北米精錬事業

## FY2023 3Q

精錬手数料、トレーディングや前渡し収益が増加。  
一方で需要の低下により、製品販売・加工は減少。

## ➡増収・増益

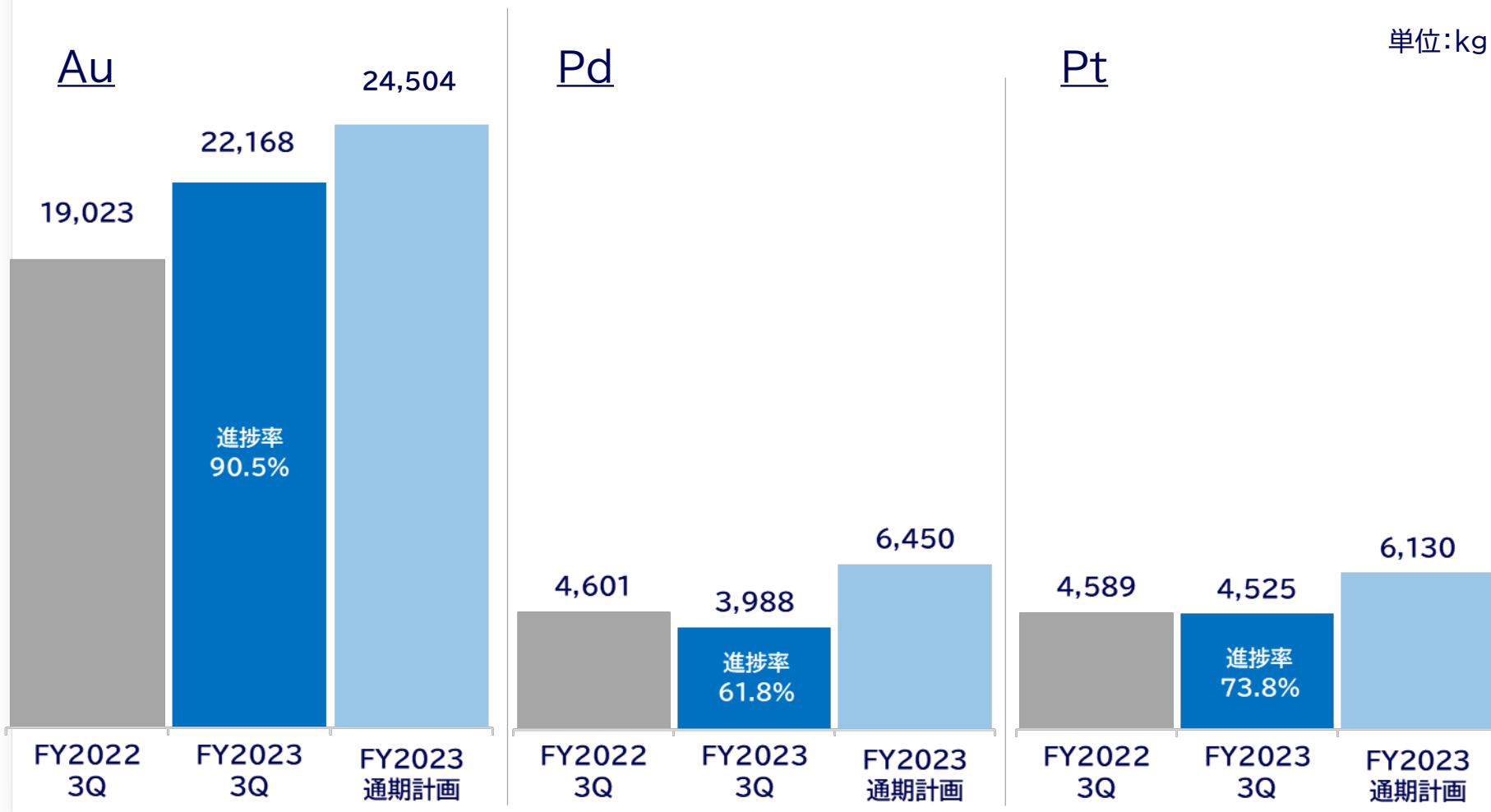
(単位:億円)

貴金属	FY2022 3Q	FY2023 3Q		FY2023	
	実績※	実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	1,924	2,229	304	2,720	△ 22
営業利益	155	84	△ 71	167	△ 31
利益率	8.1%	3.8%	△ 4.3%	6.1%	△ 1.1%

※FY2023からセグメント会計基準の変更に伴い、FY2022実績は遡及処理しております。



- 金価格の高騰を背景とした市場流通量の増加や、坂東工場の増産体制整備などにより金の回収量は更に増加、グリーンゴールド販売強化の戦略の一環
- 一方で、パラジウム及びプラチナは触媒分野を中心に回収量が減少

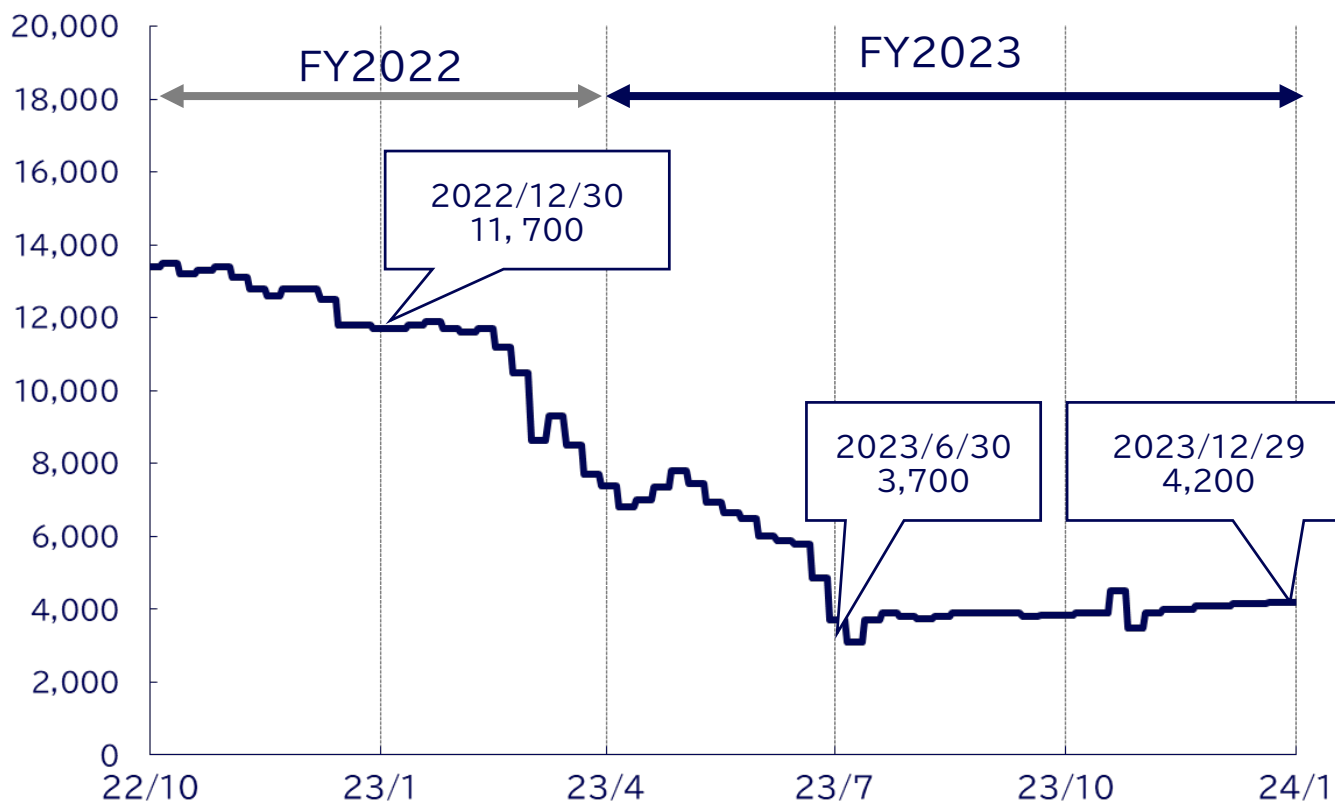




- ロジウム価格は1Qに下落したが、2Qで下げ止まり安定的に推移
- 一方、12月末の価格が前年同月末比64%下落しており、3Q累計で前年同期比約27億円の減益
- ロジウムのヘッジ比率は2023年12月末時点で47%と計画通り

[単位: \$/toz]

### ロジウムの価格推移



※参照:Metals Week NY Dealer Prices

## 環境保全事業

## FY2023 3Q

産業廃棄物の取扱量や処理施設の稼働率は安定推移したが、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の取り扱いが変わり医療系廃棄物の単価が下落していること、横浜工場の新焼却炉建設に伴い事業転換(既存事業の廃止)したことの影響を受ける。

## →減収・減益

(単位:億円)

環境	FY2022 3Q	FY2023 3Q		FY2023	
	実績※	実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	134	123	△ 11	180	△ 2
営業利益	27	19	△ 9	23	△ 15
利益率	20.4%	15.1%	△ 5.3%	12.8%	△ 8.3%

※FY2023からセグメント会計基準の変更に伴い、FY2022実績は遡及処理しております。

単位: 億円

	2023年 3月末	2023年 12月末	増減	備考
流動資産	2,384	3,698	1,314	
営業債権	1,540	2,545	1,005	営業債権残高および増減額の大部分は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権。
棚卸資産	409	502	93	棚卸資産残高および増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。原則として買取時に貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに限定的。
その他	435	650	215	
非流動資産	491	513	22	
資産計	2,874	4,211	1,336	
負債	1,805	3,100	1,295	
社債及び借入金	1,444	2,756	1,312	大部分は北米事業の前渡し取引等の借入金。原料入荷後に借入で前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクともに極めて限定的。
その他	361	344	△ 17	
資本	1,070	1,111	41	
資本・負債計	2,874	4,211	1,336	

単位: 億円

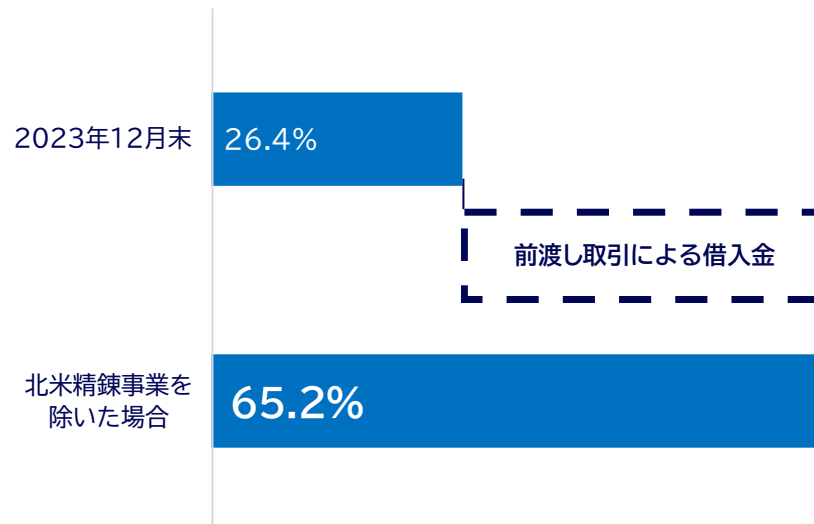
	FY2023 3Q	備考
営業活動によるキャッシュフロー	△ 78	
棚卸資産の増減額	△ 93	増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。貴金属含有量を分析してから購入し、原則として先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに限定的。
営業債権及び その他の債権の増減額	△ 875	増減額の内、956億円は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権の増減額。原料入荷後に借入で前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクともに極めて限定的。
営業債務及び その他の債務等の増減額	879	増減額の内、889億円は北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額。借入金の増減額の内、北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額は、財務CFではなく、営業CFの営業債権の増減額として表示。
その他	11	
投資活動によるキャッシュフロー	△ 154	貸付けによる支出137億円
財務活動によるキャッシュフロー	240	
借入金の増減	311	
配当金の支払い額	△ 69	
その他	△ 3	
換算差額	△ 16	
現預金の増減額	△ 9	

## 財政状態

単位: 億円

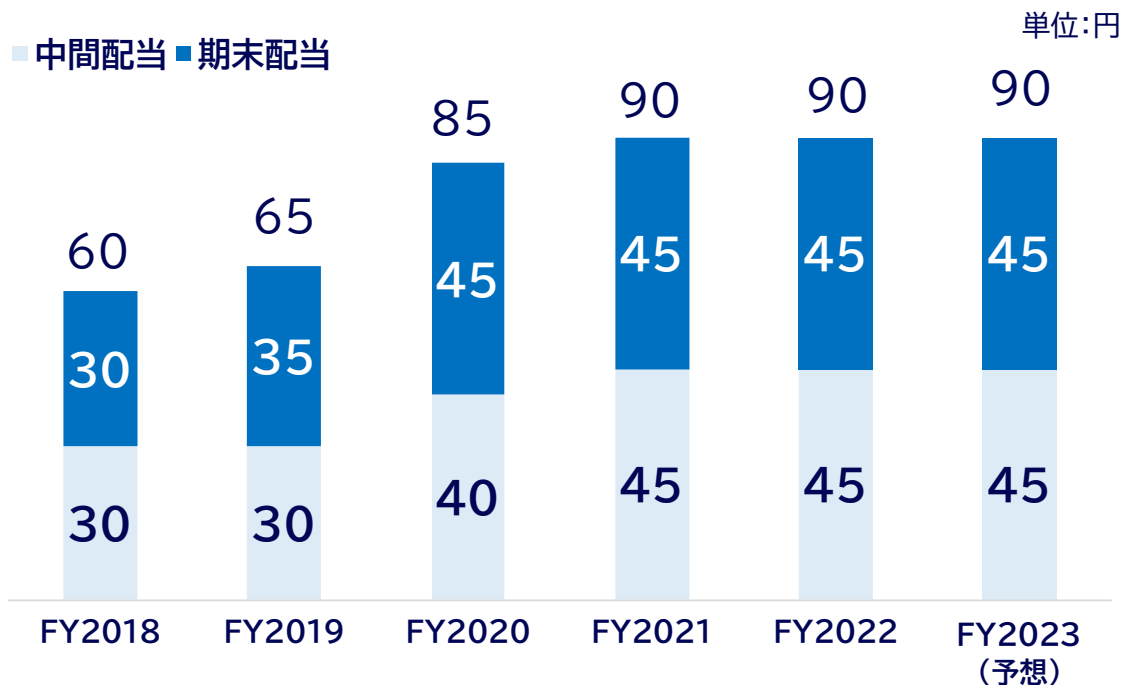
	2023年 12月末	北米精錬事業を 除いた場合
流動資産	3,698	1,191
非流動資産	513	513
資産計	4,211	1,704
負債	3,100	594
資本	1,111	1,111
資本・負債計	4,211	1,704

## 自己資本比率



- 流動資産の主な内容は、北米精錬契約に付帯した前渡金であり、金の現物で担保された安全資産
- 事業拡大に必要な大規模資金を競争力あるレートで調達
- 北米精錬事業を除く自己資本比率は65.2%と良好

基本方針:成長戦略のための設備投資やM&Aに必要な内部留保の充実を図りながら、  
 配当性向40%を目処とし、現在の年間配当水準から目減りさせず、安定的に配当を継続する



1株当たり利益 (円)	125.12	326.90	238.11	141.19	172.23
配当性向(%)	52.0	26.0	37.8	63.7	52.3

※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2021/3期までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示




# I. 2024年3月期 第3四半期決算

(2023年4月～2023年12月)

*Financial Results for Q3FY2023*

# II. 参考資料

*Appendix*

項目	取り組み状況
E (環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度のスコープ1.2.3CO<sub>2</sub>排出量について第三者検証を完了</li> <li>サーキュラーサーエコノミー、動静脈連携推進のためイニシアチブへの参画               <ul style="list-style-type: none"> <li>①サーキュラーパートナーズ (サーキュラーエコノミーに関する産官学パートナーシップ)</li> <li>②循環経済パートナーシップ</li> <li>③気候変動イニシアチブ</li> </ul> </li> </ul> 
S (社会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権方針の制定</li> <li>エンゲージメントサーベイの強化 (従来3年毎に実施していたものを今年から1年毎に実施)</li> </ul> 
G (ガバナンス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東証の「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の要請に対応済(TSR連動型株式報酬の導入等)</li> <li>取締役6名のうち、社外取締役は4名(うち2名女性)</li> </ul> <p style="text-align: right;">女性役員比率30%超</p>  <p style="text-align: right;">2名</p>



- 「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成されるJPX日経インデックス400に4年連続選定
- GPIF活用の国内株式ESGインデックス6本の内4本の構成銘柄に選定
- 高配当銘柄としても評価

## インデックスに採用



### JPX-NIKKEI 400



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index



Morningstar® 日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数(除くREIT)

2023 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

日経累進高配当株指数(愛称:しっかりインカム)

ディスクレイマー

AREホールディングスを MSCI インデックスに含めること、および MSCI のロゴ、商標、サービスマーク、またはインデックス名を使用することは、MSCI またはその関連会社がAREホールディングスを後援、承認、または宣伝することを意味するものではありません。MSCI インデックスは MSCI の独占的財産です。MSCI ならびに MSCI インデックスの名称およびロゴは MSCI またはその関連会社の商標またはサービスマークです。

## ESG 評価

MSCI  
ESG RATINGS



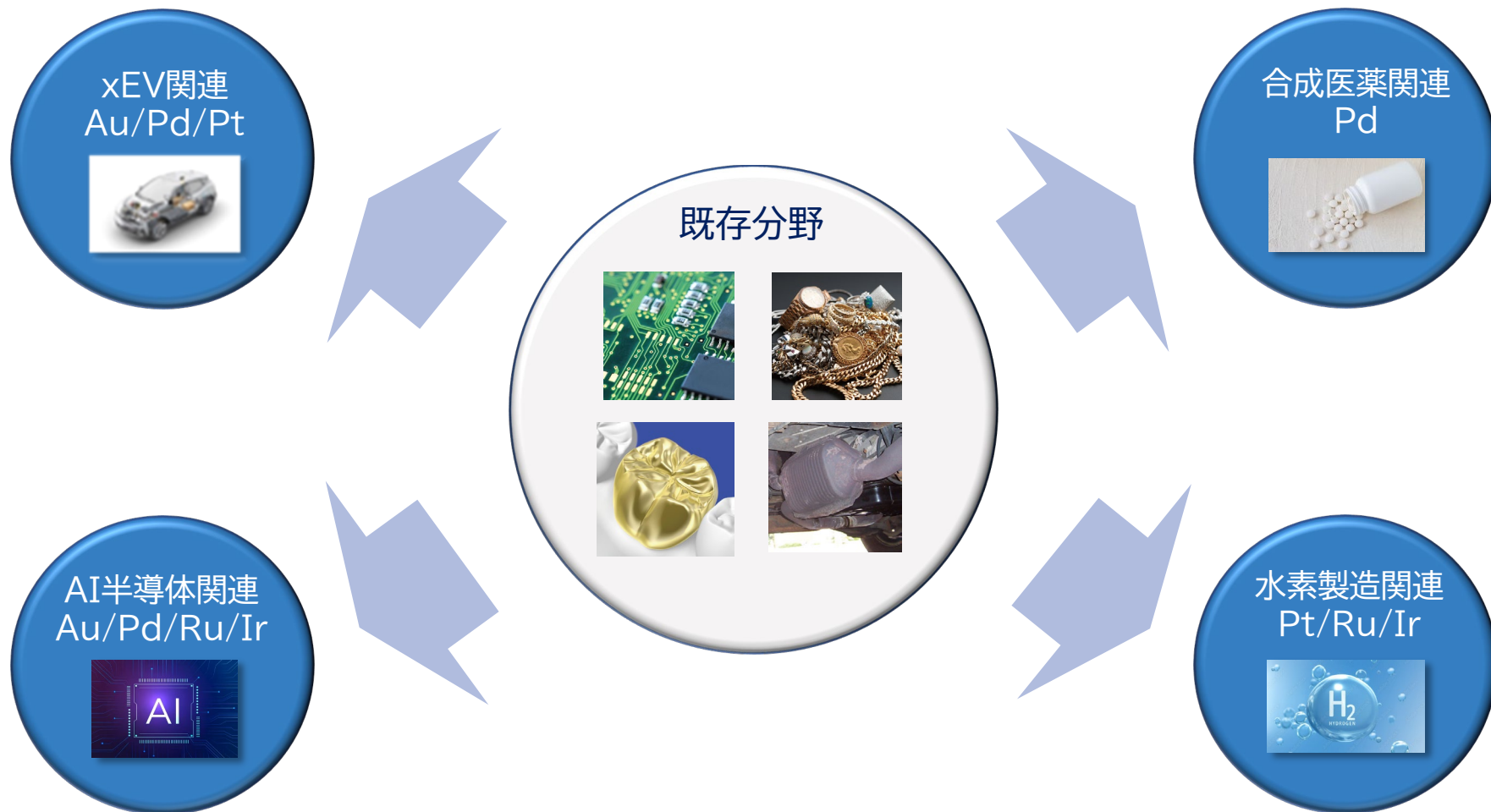
CCC	B	BB	BBB	A	AA	AAA
-----	---	----	-----	---	----	-----



スコア  
B

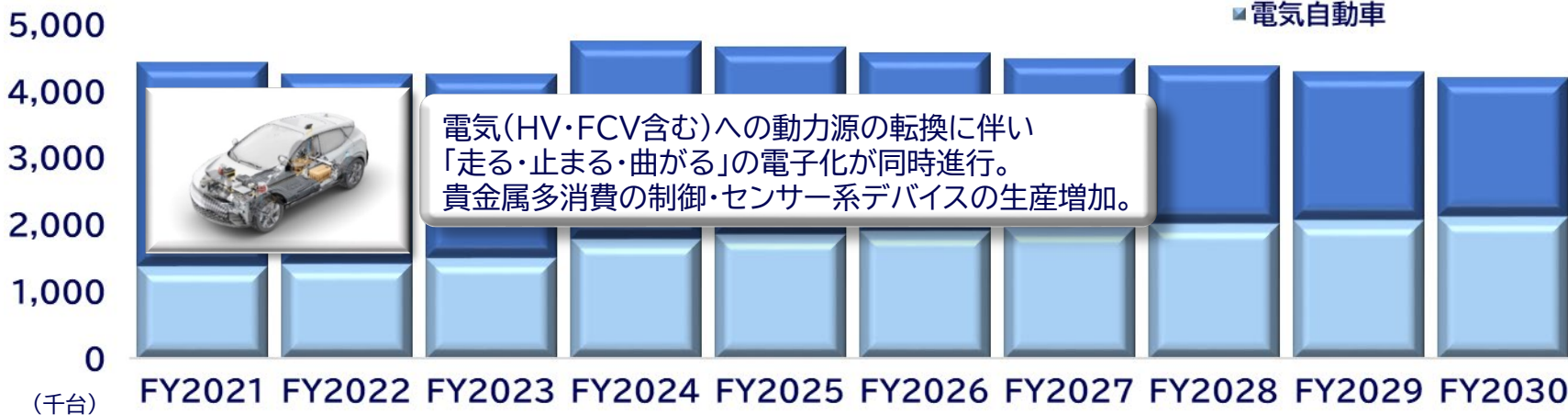
\*2022年における外部評価に基づく

- 高いリサイクル技術を基盤に、技術革新に伴い市場拡大が期待できる分野に進出
- 市場動向を踏まえリサイクル対象金属を拡大



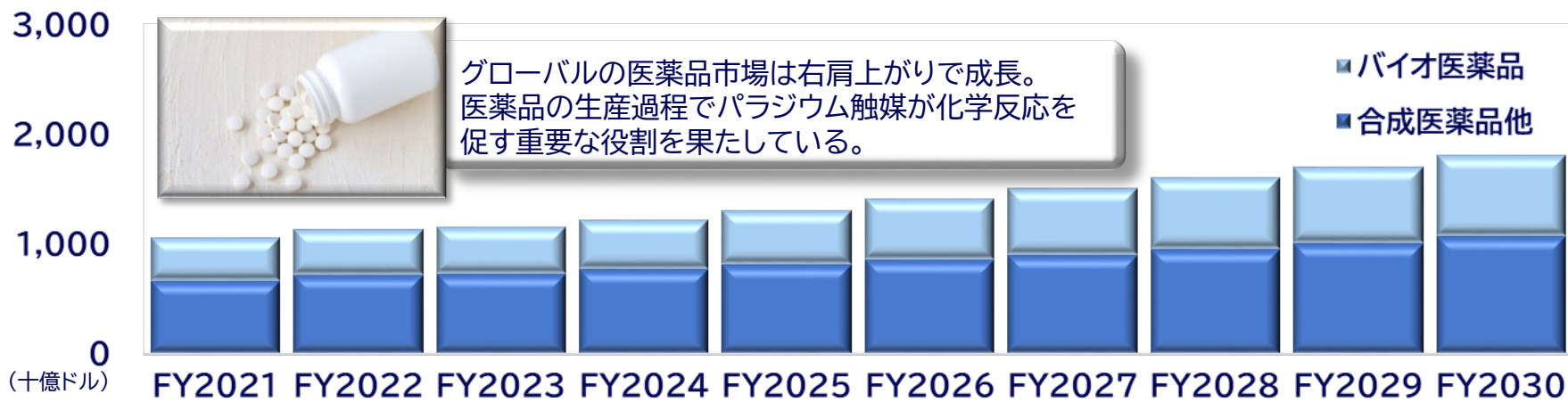
## • 社会の課題解決がリサイクル新市場を創造

国内販売台数



出典：日本自動車販売協会連合会のデータを元に当社推計

グローバル医薬品市場規模



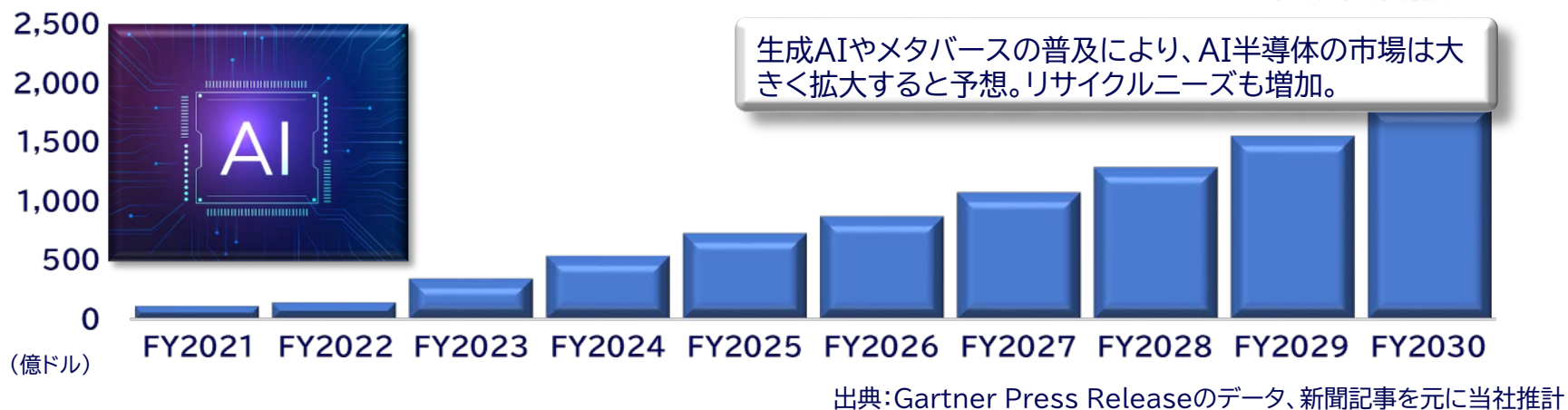
出典：EvaluatePharma®のデータを元に当社推計

## 最先端分野におけるリサイクル新市場を創造

### グローバル水素生産能力



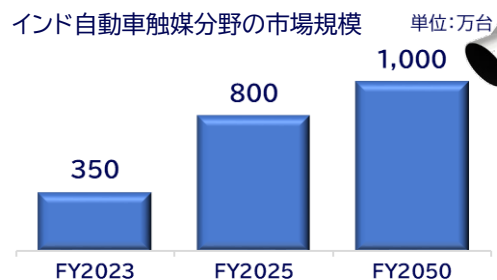
### グローバルAIチップ市場規模



## 成長が見込めるアジア市場での営業を強化

### インド 触媒分野

政府主導の「廃車政策」を背景に、自動車メーカーと協業し進出



韓国アサヒ

アサヒプリテック

ASAHI G&S

### ASEAN 電子・半導体分野

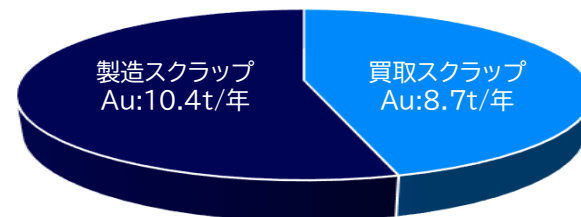
海外現法と協働し日系、欧米系、韓国系メーカーにアプローチ



### タイ 宝飾分野

リサイクルニーズへの対応  
グリーンゴールドの販売

タイ宝飾スクラップ市場(2023年)  
(インゴット、ミント製品除く)



- 触媒分野の工場を愛媛から坂東に集約するため、坂東工場の拡張を計画(第2期)、2025年4月に稼働予定。同時にエレクトロニクス分野の処理能力も拡大予定
- 生産拠点の統廃合と最先端技術の搭載により、コスト競争力の向上を目指す
- 既に着工済み、進捗は計画通り

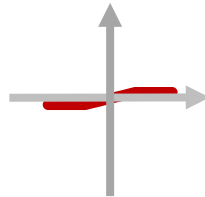
#### ・坂東工場(第2期)完成イメージ図



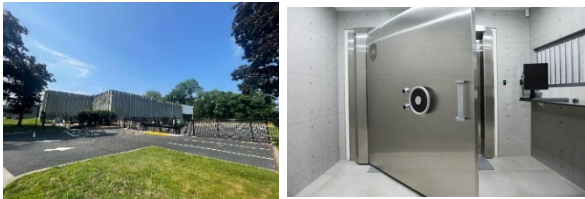
## ① プロダクト事業の拡大



## ② トレーディング機能の強化

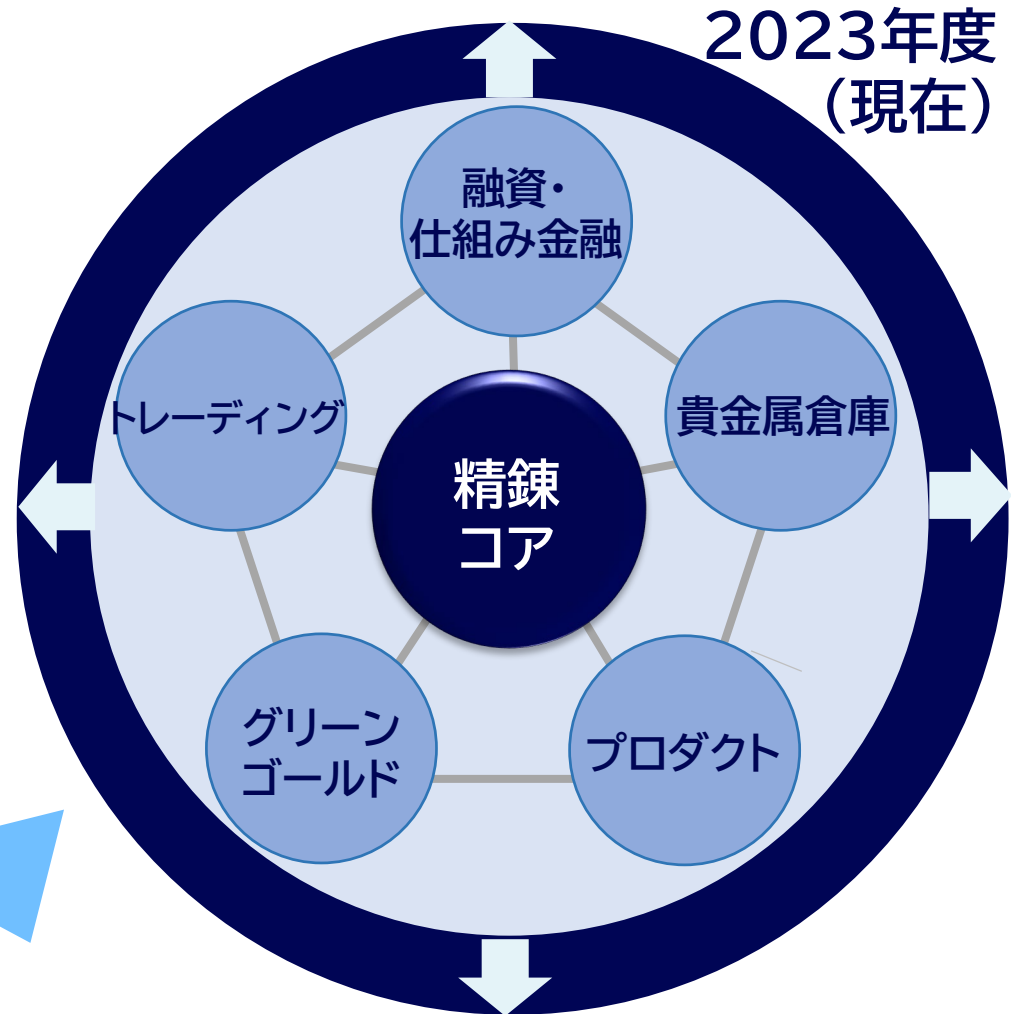


## ③ 貴金属倉庫事業開始



2015年度  
(買収時)

精錬  
事業



2023年度  
(現在)

精錬  
コア

融資・  
仕組み金融

貴金属倉庫

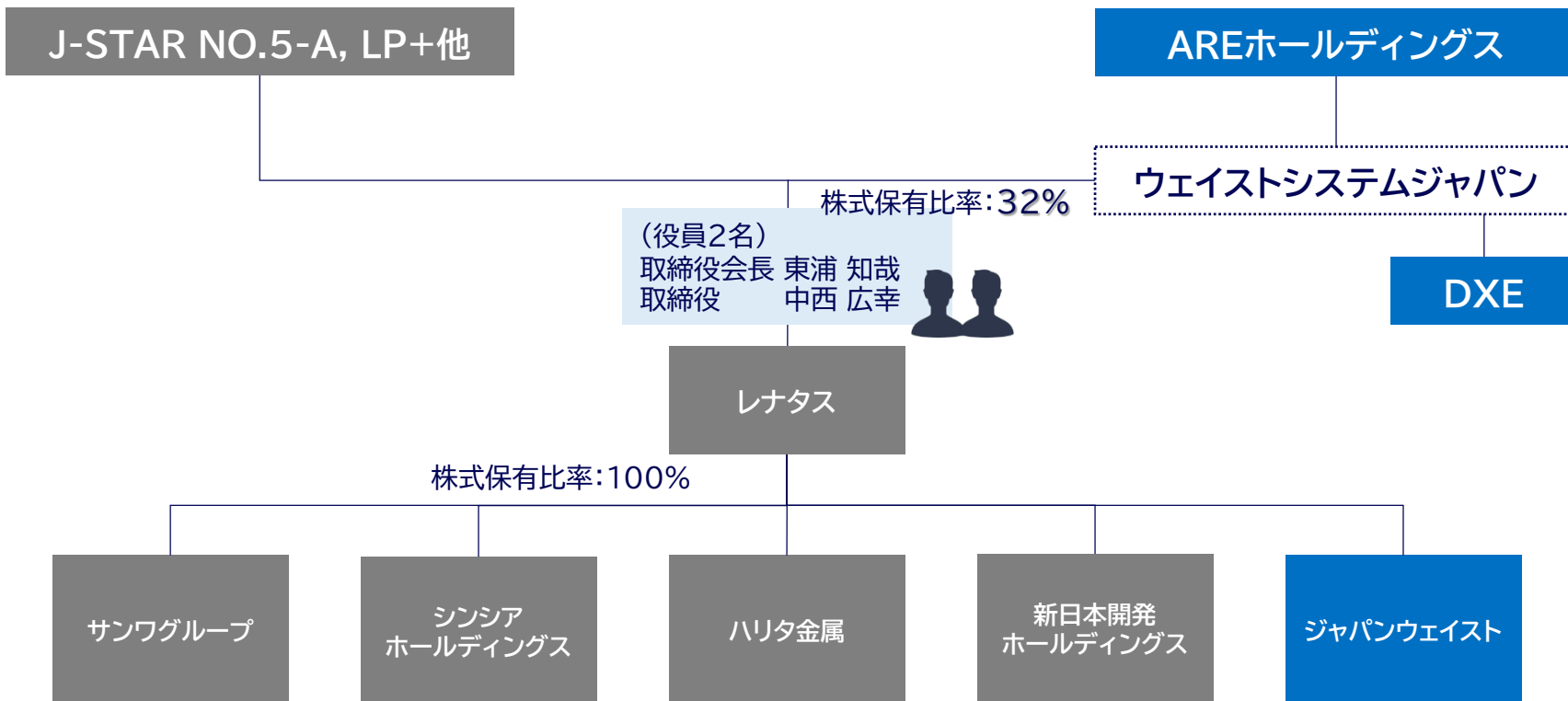
プロダクト

グリーン  
ゴールド

トレーディング

- 産業廃棄物処理の企業グループであるレナタスを完全親会社として、ジャパンウェイストを完全子会社とする株式交換を行うことに基本合意
- 2月末の株式交換契約締結を目指して、双方がデューディリジェンスを実施中
- レナタスとしての上場を目指す

## (株式交換後のストラクチャー)





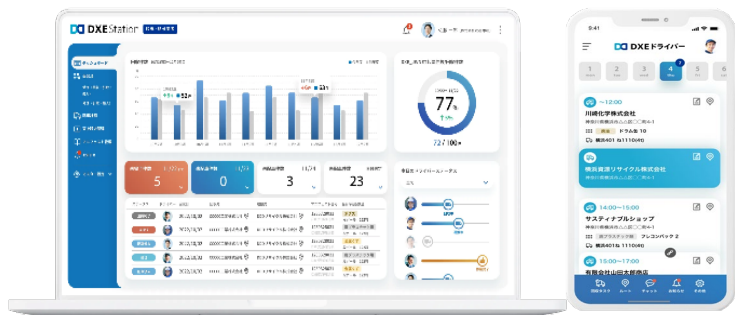
- 株式交換を通じて売上高が業界トップ水準に
- ジャパンウエストの全国規模の営業網と、レナタスの所有する首都圏、中部圏、近畿圏、北陸圏の大規模処理施設とのシナジーの発揮、当社貴金属事業との協力を強化することで、企業価値の向上を目指す

産業廃棄物処理企業	売上高 (億円)
A社	677
<b>レナタス</b>	<b>544</b>
B社	340
C社	188
<b>ジャパンウエスト</b>	<b>182</b>
D社	164
E社	78
F社	48



レナタスの決算数値はグループ企業の直前期決算数値(決算数値が確定していないものは、直前々期の数値)と当社環境保全事業セグメント数値の単純合算(2023年3月期決算数値前提)  
 B社及びD社は2023年2月期、F社は2022年12月期決算数値よりそれぞれ抜粋  
 上記以外は2023年3月期決算数値より抜粋

- 産業廃棄物処理をデジタルで効率化し環境負荷を削減、低炭素で持続的な社会の実現に貢献
- 2023年4月に「DXE Station」をリリース、処分事業者向けサービスを追加することで、Manifestから売上請求まで一連の産業廃棄物処理業務を劇的に効率化
- 同年7月に全国産業資源循環連合会標準様式準拠の電子契約サービス開始、更に顧客のDX化を推進



### Phase01

2022年6月～

**DXE 処理**

**DXE処理の提供を開始**

代行起票や受注管理の機能により、  
収集運搬業者の業務効率化を実現。

### Phase02

2023年4月～

**DXE Station**

**DXE Stationをリリース**

回収管理から搬入管理まで、  
全廃棄物処理業者をシームレスに繋げる。

### Phase03

2025年～

**DXE Station**

**CO2排出量の抑制に寄与**

CO2排出量の自動計算※による  
カーボンニュートラルへの貢献

- 2021年に環境省の補助事業に認定後、新門司工場において設備導入と技術検証が無事完了  
現在はサプライチェーン体制と副産物の外販体制の構築フェーズ
- 加えて、建設中の横浜工場にも類似設備を設置して、グループ完結型のサプライチェーンを構築予定  
発生水素を貴金属リサイクル工程にて利用することで、CO2排出量削減を期待  
また、本取組も環境省の補助事業に認定

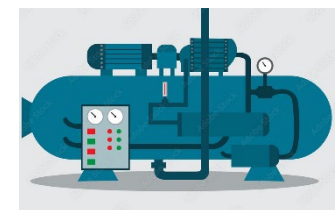
ジャパンウェイスト  
横浜焼却炉



水電解装置



水素圧縮ユニット



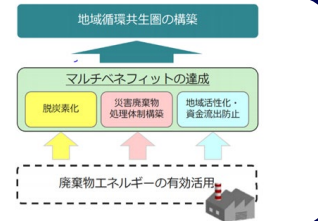
廃棄物発電



アサヒプリテック  
坂東工場(第2期)

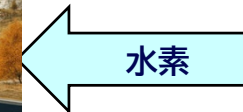


環境省  
Ministry of the Environment  
廃棄物処理×脱炭素化による  
マルチベネフィット達成促進事業

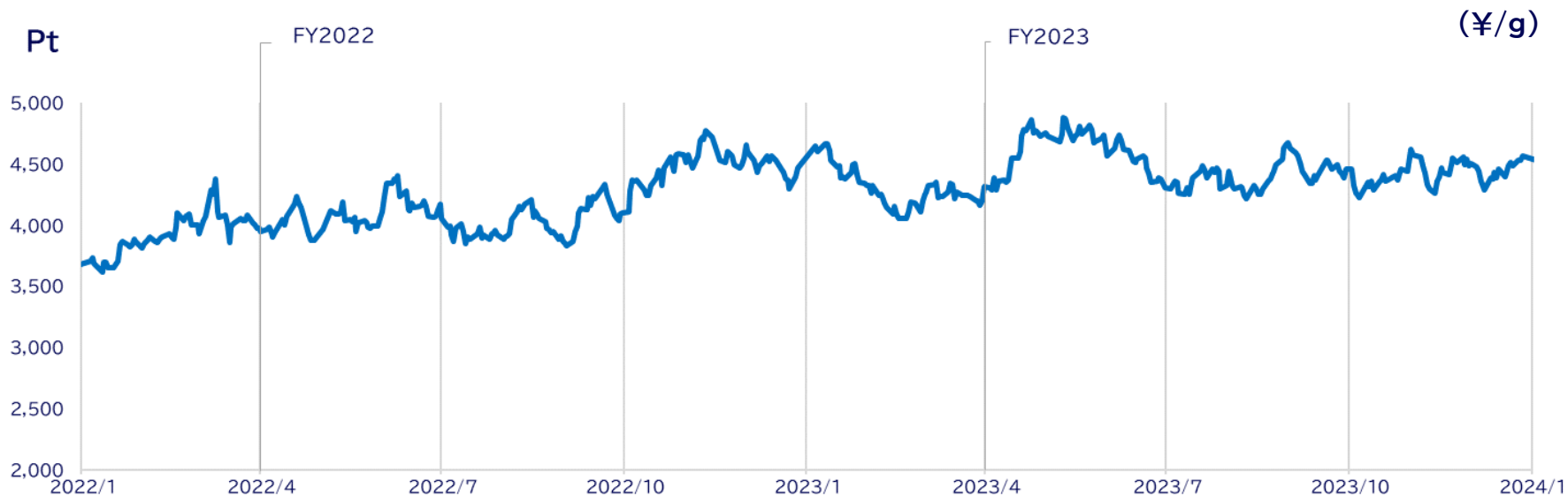


水素カードル

熱利用水素バーナー







単位:円

貴金属 価格 (1gあたり)	FY2022 3Q	FY2023 3Q	
	期中 平均価格	期中 平均価格	増減
金	7,885	9,425	1,540
パラジウム	8,999	5,293	△ 3,706
プラチナ	4,492	4,426	△ 66

◆参照元

金…山元建値

パラジウム…日経安値

プラチナ…小売価格(税抜)